

革命でもあった アメリカ独立戦争

**民主主義の理想実現を目ざす
新興国アメリカの誕生**

北アメリカ東岸では、イギリスからの移住者による13植民地が、それぞれ議會を設けて自治を行っていた。18世紀後半、フランスとのフレンチインディアン戦争で多くの負債を抱えたイギリスが、植民地への課税を強化すると、植民地側はこれに反発。「代表なくして課税なし」と主張し、イギリス製品の不買運動で印紙税を撤廃させ、1773年には東インド会社に茶の独占販売権を与える茶法に反発してボストン茶会事件を起こした。74年には植民地の代表らが集まって大陸會議を開き、イギリスに抗議するが、イギリスがこれを無視したため、75年、両者はついに武力衝突する(アメリカ独立戦争)。76年に大陸會議は、基本的的人権とそれを侵害する政府に対する革命権を主張するアメリカ独立宣言を発表。翌年には連合規約を採択し、13植民地の連合によるアメリカ合衆国の成立をうたった。

独立戦争では、当初アメリカ側は苦戦したが、フランスなどがアメリカを援助したことで戦局は逆転。83年のパリ条約で独立が承認された。そして87年には、人民主権、連邦主義、三権分立を謳う合衆国憲法が制定され、89年にはワシントンが初代大統領とする連邦政府が成立した。

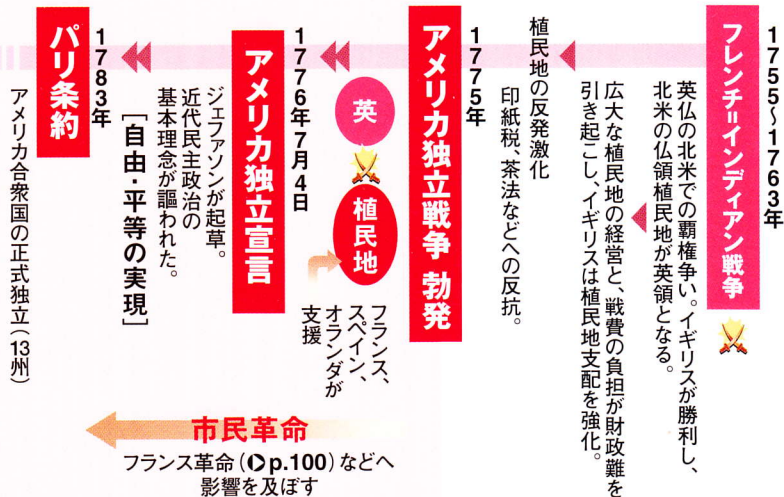
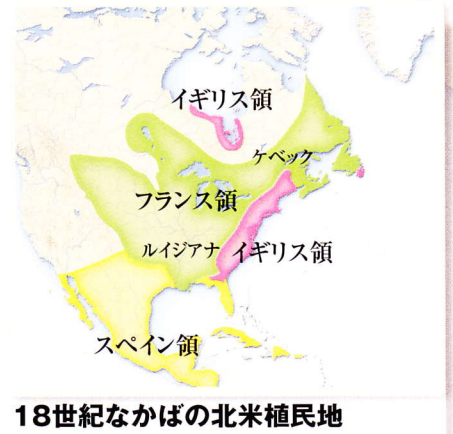
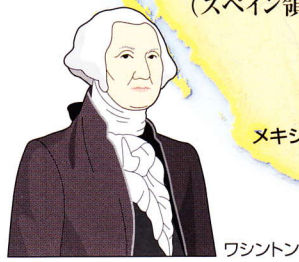
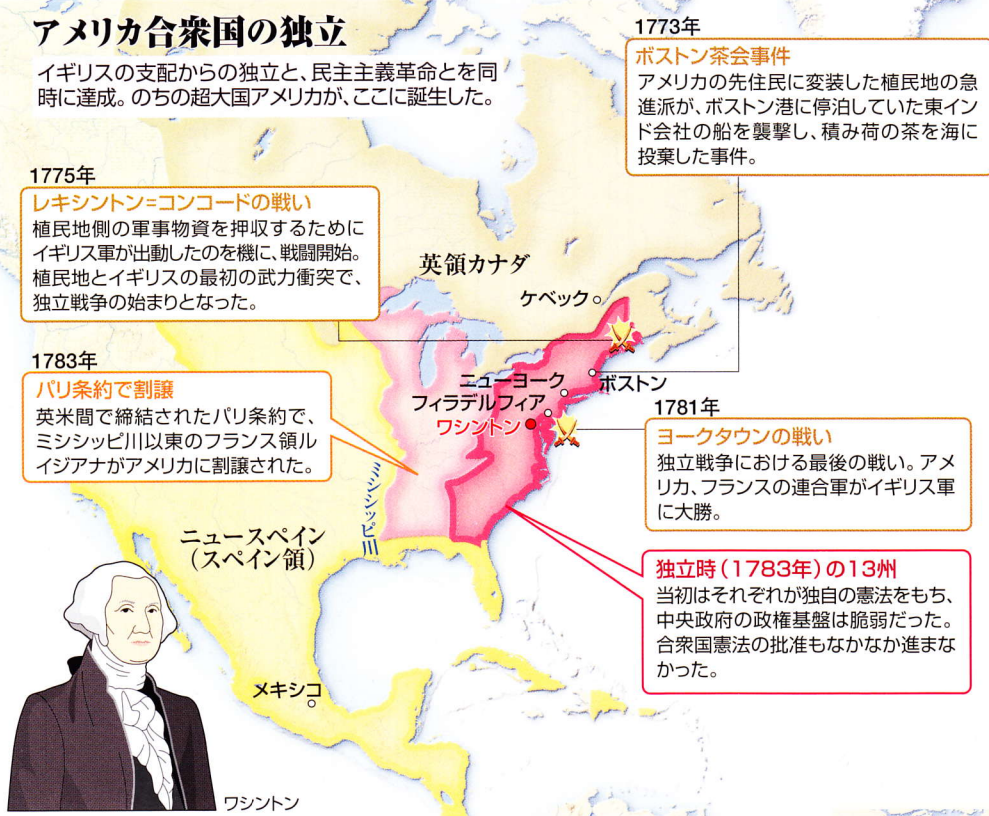


北アメリカのイギリス植民地で起こった独立戦争は、民主主義国家を誕生させる革命でもあった。

アメリカ独立戦争

アメリカ合衆国の独立

イギリスの支配からの独立と、民主主義革命とを同時に達成。のちの超大国アメリカが、ここに誕生した。



Key Word
ワシントン
[1732~99年]

アメリカ合衆国初代大統領。農場主の出身で、アメリカ独立戦争に際し、植民地軍の総司令官として活躍した。1787年、フィラデルフィア連邦憲法制定会議の議長に推され、次いで89年に大統領に選出。92年には再選された。高潔、無私の人柄が愛され、今なお合衆国建国の父として崇敬されている。